

平成25年度

地域づくり総合支援事業

(サポート事業)



平成25年度に実施された
「地域づくり総合支援事業(サポート事業)」
の
実績を紹介します!

新規事業



【一般枠:その他の地域】

夢と愛を届けるクラシックコンサート

【事業団体】財団法人立教志塾(白河市)

【事業内容】地元の中高生や社会人からなるアマチュア楽団が、プロのクラシック音楽家からの指導を受け、共演してコンサートを行うことにより、将来の音楽家の卵を育んだ。また、コンサートに被災者も招待し、安らぎの時間を過ごしていただいた。これにより、地域文化のさらなる向上に貢献した。

◆日程:平成25年10月26日(土)…地元楽団とプロ音楽家との合同練習と交流会
平成25年10月27日(日)…コンサート

◆会場:白河文化センター



新規事業



【一般枠:その他の地域】

白河市ご当地キャラ(ゆるキャラ)

制作事業

【事業団体】公益社団法人白河青年会議所（白河市）

【事業内容】「しらかわん」は、地元出身のデザイナーにデザインを依頼し、名称は公募により決定した。9月に開催した「ご当地キャラこども夢フェスタ in 白河」において白河を全国にアピールした。また、首都圏で行われたゆるキャライベント（ゆるキャラさみっと in 羽生）等に積極的に参加し、「八重の桜」での「戊辰戦争白河口の戦い」の放映をきっかけとして誘客拡大に努めた。また、白河市のご当地キャラクターである「ガルライザー」（ご当地ヒーロー）や「小峰シロ」（萌えキャラ）とも連携して活動を行った。



©2013 しらかわん

新規事業



【一般枠:その他の地域】

小さな種、蒔いて大きな夢

【事業団体】白河農協青壮年連盟（白河市）

【事業内容】風評被害払拭のため、農業者青年部と白河商工会議所青年部が協力した農商工連携体制で、首都圏等の人々を対象に白河で田植えから酒造りまで（発表を入れて6回）を体験する事業を実施し、首都圏の消費者と地元参加者が交流することにより、白河地方の安全、安心をPRした。

- ◆参加人数…300名（1回50名×6回）
- ◆田植え面積…60a（コシヒカリ50a、酒米10a）
※白河市東釜子地区の耕作放棄地を活用
- ◆参加者には大吟醸酒4号瓶×2本をプレゼントした。



新規事業



【一般枠:その他の地域】 震災関連映画の上映による 映像文化事業

【事業団体】白河シネマパラダイス運営委員会（白河市）

【事業内容】震災後2年が経過し、日々風化する震災の記憶を忘れないようにするため、一般の劇場ではあまり観ることのできない震災関連をテーマとした様々な映画作品を定期的上映して、人々が、震災を経験した感情を共有し地域の絆の大切さを再認識することに貢献した。

◆会場…白河市文化センター、白河市東文化センター

◆上映回数…各会場の4回（6月/8月/10月/2月） 1回の入場者平均…118.5名



【上映映画一覧】

新規事業



【一般枠:その他の地域】 さわやか高原にしごう魅力発信事業

【事業団体】西郷村観光協会（西郷村）

【事業内容】原発事故による風評被害で減少した観光客を取り戻すためには、地元での観光客受入体制を整備・強化する必要がある。平成25年度は福島県が舞台であるNHK大河ドラマ「八重の桜」放映による観光客増加が会津地方を中心に見込まれ、会津へ続く「甲子トンネル」の手前にある西郷村にとっては、絶好の機会であることから、豊かな自然環境を楽しんでもらう態勢をつくるため「観光ガイド」を養成した。さらに、地域の魅力を満喫できるツアーを実施し、ガイドを行い実践を通じてレベルアップを図った。

◆講師…福島県ツーリズム連絡協議会

◆講座…6回開催 ※5回以上出席者に認定証を交付した。（15名）

◆「駅からハイキング」実施



新規事業



【一般枠:その他の地域】

【わっはっは！泉崎村】 キャラバン隊実施事業

【事業団体】【わっはっは！泉崎村】交流拡大事業実行委員会（泉崎村）

【事業内容】震災の影響により、首都圏など県外からの集客が落ち込み、観光や特産品販売のみならず分譲地販売にも影響が出ている。そのため、泉崎村のキャラクター「いずみちゃん」の着ぐるみを作成し、隊長とするキャラバン隊を編成して、交流のある長野県下條村を始め東京都高円寺など首都圏で開催されるゆるキャライベント等に参加して、元気で安全な泉崎村をPRし、誘客拡大と特産品販売や分譲地販売の促進を行った。なお、交流のある南会津町が首都圏で開催するイベントや9月に白河市で開催された「ふくしまからはじめよう。ご当地キャラこども夢フェスタ in 白河」などにも参加し、協力して福島県の復興をPRした。



新規事業



【一般枠:その他の地域】

買い物ができない高齢者や仮設住宅への 移動販売と地域交流事業

【事業団体】社会福祉法人こころん（泉崎村）

【事業内容】震災による県南地方への避難者の中には、地域とのつながりもなく、情報不足による不安にかられる人が出てきている。また、高齢者がたくさん住む団地では買い物にも行けない「買い物難民」となっているケースもある。さらに、原発事故による風評被害で、放射能測定結果がNDにもかかわらず農産物の売り上げは低迷し、農家は農業を続ける自信を喪失している。これらの課題を解決するため、障がい者の就労訓練と組み合わせて、地元産の農産物等の移動販売（訪問実績：130件/月）を行うとともに、避難者や高齢者に直接モノを届ける事業を実施し、また、ミニコンサートや勉強会などを開催して、地域コミュニティの交流促進を図った。



新規事業



【一般枠:その他の地域】

被災者支援街なか元気復興事業

【事業団体】株式会社楽市白河（白河市）

【事業内容】閉じこもりがちな避難生活者や高齢者を主な対象として、健康麻雀大会やカラオケ大会といった娯楽イベントを開催した。各種大会や教室においては、避難者への周知を徹底し、半数以上の参加者を避難者から募り、避難生活における疲弊感の払拭を図った。また、避難者の仮設住宅におけるコミュニケーション不足を解消し、避難者が白河地域に溶けこむ機会とした。さらに、高齢者の認知症予防や、白河商店街のにぎわい創出を図った。

◆麻雀大会2回、カラオケ大会2回開催（平均52名参加）

新規事業



【一般枠:その他の地域】

風評を吹っ飛ばせ！料理教室

【事業団体】一般社団法人あんだんて

【事業内容】首都圏の方々に、四季折々の農作物の安全・安心を理解してもらい、放射能による風評払拭を図った。

地元住民や避難者との意見交換を通じ“福島応援団”を要請。

◆内容…首都圏の主婦層をターゲットに、収穫～調理まで体験できる料理教室を行った（年3回実施）。高橋恒雄先生（元天皇陛下の料理人）を講師に招き、新しい発想での調理法を伝授。白河に避難している方々も招き意見交換を行った。教室実施後にアンケートを行って印刷物にまとめ、首都圏などに配布した。宿泊を促すとともに、近隣の観光案内を行った。



新規事業



【一般枠:その他の地域】

ふくしまにおいでよ！写真プロジェクト

【事業団体】NPO 法人 表郷ボランティアネットワーク

【事業内容】レンズを通した“ふくしまの今”を撮影し、震災後も変わらぬ美しい農村風景があると知ってもらうことで、風評払拭を図った。カタクリや白棚線沿線風景など、地域の良さを引き出し一般にもPRした。

◆内容…モニターツアーを行い、プロの写真家を講師に招き撮影会を開催した。農村の伝統的風物「案山子」を地元中学生と高齢者で共同制作し撮影に彩りを加え、JR白棚線沿線に設置して一般にも路線バスへの誘導を促した。東北一ともいわれる天狗山の「カタクリ自生地」も新たなスポットに加え、「のぼり旗」と「案内板」を作成し、4月の開花時期の誘導手段とした。

新規事業



【一般枠:その他の地域】

安珍堂復興祭

【事業団体】根田安珍歌念仏踊保存会

【事業内容】平成25年3月に修復完了した「安珍堂」を活用して、次世代に歴史・文化を継承するとともに、地域復興を図り賑わいを創出した。

①安珍堂復興祭では、地元住民をはじめ、白河市で避難生活をしている方や、市内外から観光客を呼び、地域を盛り上げた。また、安珍・清姫饅頭、赤飯、とん汁、甘酒等を振る舞った。

②次世代への継承、地域ぐるみの運営により、来年度以降も、10年、20年と未永く、自立して開催していく。



新規事業



【一般枠:その他の地域】 白河ご当地キャラ・ヒーローフェスタ in だるま市

【事業団体】「白河ご当地キャラ・ヒーローフェスタ in だるま市」実行委員会

【事業内容】商店街来客数の減少する冬期間において、白河駅前イベント広場を活用した中心市街地活性化策を検討していくため、白河の冬の一大イベントである「だるま市」に合わせ、平成25年9月に開催された「ご当地キャラこども夢フェスタ in 白河」で注目を浴びた県内のご当地ヒーロー4人を集結し、子どもたちに笑顔を届けるイベントを行った。冬期間における白河駅前イベント人場の活用策について議論を深め、未来を担う元気な子どもたちの夢を復興のエネルギーに変え、その盛り上げを来年度の「ご当地キャラこども夢フェスタ in 白河」やだるま市につなげ、地域の活性化を図った。



継続2年目



【一般枠:その他の地域】 白河関通行手形みちのくプロジェクト

【事業団体】ライダーズピット白河関

【事業内容】震災後、観光客が激減する中、「ライダー」来県者は減少していないことから、「ライダー」をターゲットに誘客拡大をめざし、みちのくの玄関口である白河の関を「ライダーズピット（ライダーのツーリング基地）」として整備し、様々な誘導策を展開してきた。平成25年度は、新たに女性ライダーを対象としたイベントや、オフロードコースの紹介などを行い、誘客拡大を図った。

◆レディースライダーミーティングを開催し、県南地域の特産物紹介を取り入れた宿泊イベントを行った。

◆奥の細道通行手形発行（361手形発行）八溝山系を中心としたオフロードコースの紹介



継続2年目



【一般枠:その他の地域】

つなごう・ふるさと中島・絆・交流会

【事業団体】ふるさと中島・川原田を想う会

【事業内容】震災で元気をなくした地域に活力を与え、地域コミュニティを深化するため、途絶えてしまった地域の伝統行事を復活させるとともに、避難住民と地域住民の交流を通じて「ふるさとのありがたみ」を再発見する事業に取り組んだ。平成25年度は、地域の環境整備や、地域の未来を担う子どもたちの成長を促す事業を通して、地域の絆を深めた。

- ◆地域の美化活動（1,400本の花植栽、185名参加）
- ◆伝統行事「熊野講」再興（65名参加）
- ◆寺子屋教室開催（7名子供参加）
- ◆伝統行事「やぐら太鼓（盆踊り大会）」開催（500名参加）



継続2年目



【一般枠:その他の地域】

復興支援「ふるさと元気事業」

【事業団体】地震・原発災害復興支援「ふるさと元気化事業」実行委員会

【事業内容】芸術文化活動を通してふるさとを元気にするため、避難者と地域住民とが交流し、絆を深め、精神の復興を図る。平成25年度は、芸術文化活動を充実し、心の復興につなげた。

- ◆子供達の音楽教育元気化事業及びオーケストラコンサート
音楽の持つ力で、子供達を元気にするため、著名なオーケストラメンバーの指導の下で音楽に触れ、楽器による表現を学ぶ奏法講習会を開催した。さらに、被災した人々の「きもち(こころ)」の復興のため、被災地支援コンサートを開催した。
- ◆芸術文化活動による交流事業



継続2年目



【一般枠:その他の地域】

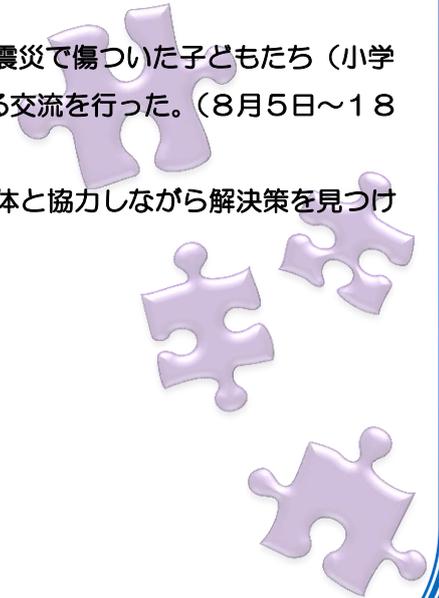
しらかわからふくしまの未来創造

Shirakawa Week

【事業団体】 Shirakawa week 実行委員会

【事業内容】 ①夏休みに、白河地域出身者の若者（大学生・社会人）が白河地域の震災で傷ついた子どもたち（小学4年生以上、中学生、高校生）を対象に、学習支援やイベント等による交流を行った。（8月5日～18日、子ども各回10名以上、大学生6名以上参加）

②大学生が福島県や白河地域の課題を発見し、行政や地域の組織、団体と協力しながら解決策を見つけるため、シンポジウムを開催した。（8月18日、白河市立図書館）



継続2年目



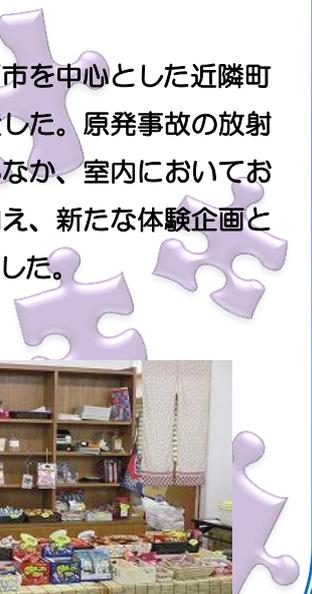
【一般枠:その他の地域】

いきいき子供広場事業

【事業団体】 マイタウン白河運営促進協議会

【事業内容】 平成25年7月24日～平成25年8月25日までの期間、マイタウンで、白河市を中心とした近隣町村の子ども達（小学3年生以下）とその家族を対象にした子どもの遊び場を設置した。原発事故の放射能の影響について、小さい子どもを持つ親にとってはまだまだ不安な状況にあるなか、室内においておもいきり遊べる場所を提供した。子どもたちがおもいきり遊べる場所の提供に加え、新たな体験企画として、被災者の家族向けに白河だるまの絵付け教室や白河窯での陶芸教室を実施した。

◆入場者数+事業参加者 2,324人



継続2年目



【一般枠:その他の地域】

～自転車で新しい風を～

「さあいこう！！白河Project」

【事業団体】白河商工会議所青年部

【事業内容】自転車を白河の特色として観光に活用し、全国の人を呼び込み、風評払拭を図った。

◆白河駅前道路で自転車レースを開催（レース参加者 353名）

イベント名「cycle road race 城d' 白河 2013」

日時：10月12日（土） 9：00～14：00

場所：白河駅前道路（白河羽鳥レイクライン）

◆「しらかわ魂」（8/3、8/4）で事前PRのためのブース設置



継続3年目



【一般枠:その他の地域】

第3回しらかわの匠と伝統の技展

「がんばるぞ！白河 食と職の市」

【事業団体】しらかわ食と職の祭典実行委員会

【事業内容】「ものづくり」に焦点をあてた「食と職の市」を開催し、多くの来場者と親子体験等があり、街中が賑わった。集大成として、体験できるものづくりを拡充し、さらなる賑わいを目指す。

◆ものづくり：親子ものづくり体験（木工、だるま絵付け、建設機材オペ体験等）

賑わいづくり体験（白河地方の安全、安心な特産品販売、市内のラーメン、そばの販売）

◆開催日：平成25年10月12日（土）、13日（日）

◆場 所：白河駅前イベント広場、白河市図書館

◆来場者：35,000人



継続3年目



【一般枠:その他の地域】

白河関まつり 東日本大震災 復興祈願「夏・元気・踊り三昧」

【事業団体】白河まつり振興会

【事業内容】しらかわの街なかで白河踊りのほか、従来より交流のあった首都圏をはじめ県内外の地域の協力を得て阿波踊りやよさこいなど、楽しく賑やかな踊り流しを中心市街地で行った。事業3年目の今年は、相馬市で活動している団体や、白河市内の企業や団体へも参加を呼びかけさらなる活気ある関まつりを行った。

- ◆開催日：平成25年8月4日（日）
- ◆場所：白河市内中心部
- ◆来場客数：15,000人
- ◆参加団体：関の踊り流し15団体ほか



継続3年目



【一般枠:その他の地域】

うれし、たのし、まち歩き(新たな情報通信を活用した回遊促進)

【事業団体】財団法人白河観光物産協会

【事業内容】全国でもまだ事例の少ない「ご当地観光アプリ」を立ち上げ、全国に情報発信する。この白河観光アプリでは、地図情報や宿泊施設の案内だけではなく、観光客が欲しい情報を1つにまとめた、ワンストップアプリを目指して開発する。iPhoneに続き android 用のソフトウェアの開発も行う。

◆白河アプリ作成

白河の観光情報を提供するアンドロイド用デジタルナビゲーションソフトウェア(白河アプリ)を作成し、回遊を促す観光情報、飲食店情報、お土産情報、散策コース情報をワンストップで提供した。さらに、史跡名勝でご当地ヒーローのダルライザーや萌えキャラの小峰シロが登場するARコードなど回遊性を高める機能を強化した。



継続3年目



【一般枠:その他の地域】

ふくしまで野菜を作るプロジェクト

【事業団体】表郷いいもの開発協議会

【事業内容】白河で「農業体験」をしたいという首都圏等の方々を対象として、遊休農地を活用した市民農園を開設し、「農業体験」を通して、農産物の安全性の理解を深めてもらうとともに、交流人口の増加につなげる活動を行ってきた。平成25年度は、戸田市の団体に新たに参加してもらい、引き続き首都圏との交流拡大を目指して活動を行った。

- ①田植えと野菜の植え付け体験（5月11日）：3aの水田に手植え、畦で昼食、夕方に交流会を実施。
- ②稲刈り（10月12日）：鎌で刈り取り、天日干し
- ③参加人数：延べ114人

継続3年目



【一般枠:その他の地域】

ホースセラピー活用支援事業

【事業団体】特定非営利法人元気づくりサポートセンターなんなん福島

【事業内容】長期的な避難生活を余儀なくされている子どものみならず、県南地方の多くの子ども達は、東日本大震災により、様々な心理的なトラウマ・ストレスを受けている。子ども達をトラウマ・ストレスから解放するため、アニマルセラピーの一種である、ホースセラピーを実施した。3年目となる25年度は、要望のあった未就学児も親子で参加できる機会を設け、より多くの子どもの心のケアを行った。併せて、被災した福島県において、県内外との交流を深め、元気にホースセラピーに取り組んでいる情報を発信することにより、風評被害の軽減につなげた。



継続3年目



【一般枠:その他の地域】

陽はまた昇るプロジェクト

【事業団体】白河商工会議所青年部

【事業内容】地域の復興に更なる弾みをつけるため、子供から大人まで世代を超えて楽しむことができるイベントを開催した（平成25年8月3日(土)、4日(日)関まつりと同時開催）。子供たちがなわとび等の記録に挑戦する体験コーナー、八重の桜に関連する歴史資料の展示コーナー、有名アーティストのステージ、自転車レース「シロデ白河」（10月12日）へ向けた自転車競技の体験コーナー、ご当地キャラ夢フェスタ(9月)のPRコーナー等を設け、他のイベントとも連動性を持たせながら。観光誘客や風評払拭、白河市中心部における賑わいの創出につなげた。

◆参加者：15,000人



継続2年目



【一般枠:過疎・中山間地域】

東日本大震災復興—安心・安全「ふくしま・はなわ」の発信 大学との連携による特産品開発事業

【事業団体】はなわふるさと物産直売センター組合

【事業内容】塙町の観光・交流を活性化するため、農・商団体や交流のある東京聖栄大学と連携して、町の野菜を利用した特産品の開発を行うとともに、交流している首都圏の商店街に開設したアンテナショップ（はなわ だりちゃんショップ）において販売し、安心・安全な「ふくしま はなわ」を発信した。平成25年度は、大学と連携した特産品開発を強化し、新たな特産品と将来の担い手を育成した。



継続3年目



【一般枠:過疎・中山間地域】

はなわのダリア一大産地確立プロジェクト事業 東日本大震災復興—ダリアによるふくしまのPR

【事業団体】 埴町ダリア切花生産等推進協議会

【事業内容】「はなわのダリア」の一大産地化をめざし、ダリアの切り花の産地形成により低迷した農家の所得向上とイメージアップによる後継者育成に歯止めをかける活動を行った。3年目となる平成25年度は、ダリア栽培技術の共有化の促進と周年栽培の確立とともに小売店と連携した産直事業を推進した。

- ①栽培方法技術の共有化
- ②他産地にはない新品種ダリア育種・栽培
- ③市場、小売店への情報提供
- ④首都圏を中心とした、ふくしま・はなわのダリアPR
- ⑤周年栽培技術の確立
- ⑥小売店と連携した産直事業の推進

継続3年目



【一般枠:過疎・中山間地域】

「クロカンを活用して走る・泊まる・また来る」事業

【事業団体】 鮫川村合宿受入協議会

【事業内容】平成23年度に開設されたクロスカントリーコースを活用してスポーツ合宿の誘致を図り、地域経済と交流人口を活性化させ魅力ある地域として県内外に発信した。今年度はアドバイザーからのコース整備や運営についての助言等により、更なる魅力の充実を図った。

- ①アドバイザー委託
- ②施設誘導案内看板設置
- ③コース確認業務 等

新規事業



【集落等活性化枠】

山・水・花ふるさと花街道づくり事業

【事業団体】 東河内二区

【事業内容】 集落の活性化を図るために平成24年度に策定した集落等再生計画に基づいて、沿線への桜やつつじの植樹、水量豊富な清水、美肌に効果があるとされる旧湯治場の鉱泉等の整備を進めた。各スポットの魅力を上向きさせ、観光誘客を図り、集落の活性化につなげた。

①花街道さくら・つつじ植樹 ②花街道東屋設置 ③滝つぼ周辺整備

継続2年目



【集落等活性化枠】

「大豆パワーで強い絆(きづな)づくり」事業

【事業団体】 深渡戸町内会

【事業内容】 集落の活性化を図るために平成23年度に策定した集落等再生計画に基づいて、地域資源である大豆をもとに、味噌の加工販売を行うとともに、新たな加工物として地元産の野菜等を活用した「味噌漬け」を加工販売し、収入の更なる向上と集落の活性化を図った。

①味噌づくり 味噌づくりに適した時期に加工ができた。
②味噌づけ キュウリを古漬けでなく、現代人が好む味に加工できた。

継続2年目



【集落等活性化枠】

矢塚地区活性化事業

【事業団体】 矢塚区

【事業内容】 矢塚地区は、平成 22 年度に「大学生の力を活用した集落活性化事業」により東日本国際大学生から地域活性化の提言を受けた。

＜地域活性化の方向性＞

①観光振興拠点の整備 ②都市交流を行い、定住化につなげていくためのイベント実施 ③地域特産品の研究、開発による地域産業の育成 この提言に基づき、3年計画で人々が集う花の名所を目指し、集落南西部の森林に、埴町と関係の深いダリア・ツツジの植栽や、遊歩道・展望台などを整備するとともに、農産物や加工品による矢塚ブランド開発を行った。さらに、今回整備した集落南西部の花の名所と、集落北側の「希望の森」や「矢塚分校跡」を活用し、広がりを持った交流の場づくりを進め、集落活性化のため埴町が都会から招致してこの地に移住した。「地域おこし協力隊」2名の協力も得ながら、地域活性化を図った。

◆平成25年度事業

- ①集落住民によるダリア植栽（第二希望の森に一万球）
- ②矢塚分校跡を活用した産品開発

